



さいきん すいりょくはつでん みなお  
最近、水力発電が見直されているのは、なぜなの

すいりょくはつでん ちゅうしん  
もともとは、水力発電が中心だった

日本では、1891年に、京都の蹴上発電所が発電を開始してから、水力発電が中心で、火力発電がそれをおぎなう、「水主火従」時代が過ぎました。

1960年代の中ごろになると、石油や石炭を燃料にする火力発電所が増え、「火主水従」と関係が逆転しました。

その後、2度にわたる石油ショックをきっかけとして、原子力発電が急速にのびました。

現在の発電のエネルギー源別割合(1996年)を見ると、火力が61.2パーセント、原子力が29.9パーセント、水力が8.9パーセントです。

すいりょく かんきょう  
水力は、環境にやさしいクリーンなエネルギー

近年、水力発電が見直されるようになりました。その理由は、水力が空気をよごさないきれいなエネルギーであることです。地球温暖化などの地球環境問題に取り組むのに、水力発電のような非化石エネルギーのほうがよいからです。

また、夜、火力発電や原子力発電で生み出される、余った電力を使って、揚水式発電が利用できるからです。夜、余った電力を使って、低いところにある水を高いところにくみ上げ(揚水)ておき、電力じゅ要がピークになったときに、この水を使って発電するのです。こうして、必要なときに必要な電力を取り出せるという、水力発電の特徴が生かされるからです。(監修・保岡 孝之)

